



議会だより

6月定例会

一般質問 ～町政のここが聞きたい～ P.4～9

わたしの一言 …………… P.12



夏、はじまる！

～藍住南幼稚園 プール開き～

6月議会定例会が6月3日から17日までの15日間の会期で開会され、次の議案について審議しました。

一般質問では6人の議員が登壇し、町政について質問しました。

6月定例会

～町長提案～

- 令和6年度藍住町一般会計補正予算の専決処分の報告と承認……………可 決
- 藍住町税条例の一部を改正する条例の専決処分の報告と承認……………可 決
- 藍住町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分の報告と承認……………可 決
- 令和7年度藍住町一般会計補正予算……………可 決
- 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人情報の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正……………可 決
- 藍住町立小学校及び中学校の体育施設開放に関する条例の一部改正……………可 決
- 藍住町重度心身障がい者等に対する医療費の助成に関する条例の一部改正……………可 決
- 資源回収車の購入契約の締結……………可 決
- 固定資産評価審査委員会委員選任の同意……………中野 稔氏
- 固定資産評価員選任の同意……………増原浩幸氏
- 藍住町小学校情報機器整備事業の物品購入契約の締結……………可 決
- 議員資質向上の調査特別委員会の設置……………可 決
- 議員資質向上の調査特別委員会委員の指名……………可 決

～報 告～

- 令和6年度藍住町一般会計繰越明許費繰越計算書(※)の報告
繰越総額 2億3,766万5,635円
- 令和6年度藍住町一般会計継続費繰越計算書の報告
繰越総額 2,077万5,000円
- 令和6年度藍住町水道事業会計予算繰越の報告
繰越総額 1億6,490万7,000円
- 令和6年度藍住町下水道事業会計予算繰越の報告
繰越総額 9,834万9,900円
- 藍住町土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出

(※)繰越明許費とは？

特定の事業や特別の事情(天候の都合など)で、年度内にその支出を終わらない見込みのあるものについては、予算の定めることにより、翌年度に繰り越して使用できる経費(地方自治法第213条)。

町長は翌年度の5月31日までに繰越計算書を調製し、次の議会の会議に報告しなければならない(地方自治法施行令第146条)。

令和7年度 一般会計補正予算

(1万円未満四捨五入)

歳入歳出
それぞれ

1億7,100万円増額

予算
総額

146億5,100万円

～主な補正の内容～

■ 民 生 費

◆定額減税を補足する調整給付金事業(不足額給付)…………… 1億7,100万円

議員資質向上の調査特別委員会が設置されました

本委員会は、実例などを基に、議員としての行動規範を考え、法令順守はもちろん、ハラスメント防止など、16名の議員が共通した、倫理観や道徳観を持つことで、より良い議員活動が行われるようにすることについての調査・研究に関する事項

委員長	永浜 浩幸	副委員長	森 伸二	委員	栗島 和義
委員	新居 純一	委員	元木 春香	委員	紙永 芳夫
委員	竹内 君彦	委員	前田 晃良	委員	宮本 影子
委員	小川 幸英	委員	林 茂	委員	奥村 晴明
委員	佐野 慶一	委員	森 志郎	委員	鳥海 典昭

令和7年 第1回臨時会

7月22日開催の臨時会において次の議案が上程され、可決しました。

～町長提案～

- 藍住町の議会の議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正 …… 可 決
- 特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正 …… 可 決
- 藍住東中学校体育館空調設備設置請負工事契約の締結 …… 可 決
契約金額 7,986万円 契約の相手方 大都空調株式会社

定例会案内

本会議を傍聴しませんか

次の定例会は9月です。

定例会日程や議会だよりについてはホームページに掲載しています。そちらをごらんください。

次号は11月に発行します。

詳しくは議会事務局まで
お問い合わせ ● 議会事務局 ☎637-3127

編集委員会では、町民の声の投稿を募集しています。議会や町政、議会だよりに関する御意見をお寄せください。

投稿規定

- ①住所・氏名・電話番号を明記。
- ②掲載時には、氏名を掲載させていただきます。
- ③字数は500字以内。
- ④掲載月を調整する場合があります。
- ⑤御意見の内容によっては、「町民の声」として取り扱わない場合もありますので、あらかじめ御了承ください。



にい じゅんいち 議員
新居 純一



6月議会会議録

ノリ乗りタクシー券 販売案内状郵送について

現在検討を進めている



問 販売案内状を対象者全員に郵送するのではなく、前年度購入者と当年度に資格を取得する方のみに郵送すれば、町経費の郵送料、案内状作成費用、その他の事務作業が軽減できると考えられますか。

答 現行の全件送付を続ける方法と、前年度購入者及び新規対象者のみに限る方法との比較検討を進めている。

藍住町ノリ乗りタクシー券事業実績

令和4年度	対象者数	購入者数
75歳以上の世帯の構成者かつ要介護非認定	1,580人	149人
65歳以上の運転免許返納者かつ要介護非認定	18人	15人
計	1,598人	164人
令和5年度	対象者数	購入者数
75歳以上かつ要介護非認定	3,151人	262人
65歳以上の運転免許返納者かつ要介護非認定	12人	10人
計	3,163人	272人
令和6年度	対象者数	購入者数
75歳以上	5,081人	368人
65歳以上の運転免許非所持者	15人	11人
計	5,096人	379人

町職員について

職員の資質向上と、長期的な視野に立った人材育成に取り組んでいく

問 新規採用を4月、10月と年に2回なぜ採用しているのか。

答 令和元年当時、4月採用の合格者のうち辞退者があったため、それを補充するため10月採用を行った。以来10月採用は、基本的には4月採用

用合格者に辞退者があった場合の対応として実施している。また、10月採用応募者は、前職でのキャリアもあることから即戦力として期待できるという側面もある。

問 新規採用者の当初の10年間は、どのような育成計画を基に育成しているのか。

答 1年目から3年目の時期には、窓口業務が多い部署へ基本的に配置することとしている。4年目から10年目の時期には、リーダーシップ能力、問題解決能力、職務専門能力の向上に重点を置き、課内をまとめる中堅職員として活躍できる人材の育成が大切であると考えており、職場内外の研修を積極的に活用実施している。

問 職員等からの公益通報窓口はあるのか。また、その運用状況は。

答 内部受付窓口として町総務課に設置している。また、外部受付窓口として弁護士に委託し設置している。本年5月末現在の通報実績はない。

問 令和5年度は6人、令和6年度は9人もの方が、定年退職以外で本町を去っている。この状況を町としてどのように認識しているのか。

答 退職事由については人それぞれ多岐にわたると考えられるが、特に若手職員が育成を行っている途中で退職するということは、町にとって大きな損失であると認識している。



もと き はるか 議員
元木 春香



6月議会会議録

不登校支援に関する情報発信(まなびのカatalog)の強化について
内容が閲覧できるような形で周知を再度行っていく

問 冊子の設置場所、関係機関も含め今後の広報の在り方や情報発信のタイミングや頻度についてどのように取り組んでいくのか。

答 町内では、小中学校、放課後デイサービス事業所、児童館に配布。また、とくぎんトモニプラザに常設し、配布している。必要な方に情報が届くよう、広報、ホームページ、すぐる等を活用して適切な時期に情報を発信していく。

図書館2階(農業振興センター)自習スペースの試験期間の利用状況と今後の取組について
常設として図書館2階への自習室の設置は予定しない

問 試験的に設置された自習スペースの設置期間、対象者、曜日、時間帯、利用人数は。

答 図1。



図1

設置期間	令和7年1月25日から 3月29日まで (2月15日を除く)
対象者	中学生及び高校生
曜日	土曜日
時間帯	午前10時～午後5時30分
利用人数	65人(9回合計)

問 藍住町では公式YouTubeチャンネルやインなど多様な情報発信ツールが整備され今後さらにニーズに応じた情報を積極的に届けていただきたい。あわせて学習需要が高まる時期には自習場所として継続的に活用することについて本町の考えは。

答 常設として図書館2階への自習室の設置は予定せず、図書館の閲覧席で対応していく。

子どもの教育支援についての町の認識について
各種調査結果を踏まえ、今後の施策に取り組んでいきたい

問 町内より多くの子供たちが安心して学べる環境づくりに向けて、現状のニーズをどのように把握しているのか。

答 第3期子ども・子育て事業計画のニーズ調査結果や総合計画策定の調査結果を踏まえ、今後の施策に取り組んでいきたい。

問 教育委員会の現在の取組と本町や国が目指す方向性との間に若干の認識のずれが生じているように感じられる。改めて関係部署内での共通認識を整理し、藍住町としての取組方を考えていただけないか。

答 学習支援をはじめとする環境整備についても、町の方針のもと実施していくこととなるが、その中で、課題解決のために必要であれば、関係部局や外部機関の協力を得ながら進めていきたい。

その他の質問

- 町長の選択的夫婦別姓制度への考え方について
- 本町のパートナーシップ制度の考え方について
- 学習支援と地域との連携による今後の体制づくりについて



栗島 和義 議員
くりしま かずよし



6月議会会議録

教育の多様化について

児童生徒がより主体的に学習に取り組むための環境整備に取り組んでいきたい

問 学びの選択肢を増やすことにより、児童生徒がより主体的に学習に取り組むことが期待されている。教育の多様化における環境の整備について、現在どのように取り組んでいるのか。

答 第2期GIGAスクール構想に対応した新しい端末は、家に持ち帰っての学習ができる。また、小学校では既に藍に関する学習に取り組んでいるなど、今後も、児童生徒がより主体的に学習に取り組むための環境整備に取り組んでいきたい。

問 多様な教育の在り方に対する保護者や教職員の理解を深めるための現在の取組と今後の方針は。

答 第2期GIGAスクールで購入する新しい端末を授業等で効果的に活用できるように、教職員を対象とした研修を夏季休業日に計画をしている。保護者に対しては、学習支援制度の案内や、学びのカタログを紹介するなどの周知を図っていく。

問 本町として、正式に全ての小中学校でラーニングの日の導入し、児童生徒、保護者に広く周知啓発すべきではないか。

答 本町としては、本年度は試験的に導入し、県の制度が様々な課題を解消して、よりよいものになった時に本格導入をしたいと考えている。今年度試験導入という方針と、制度の概要については、今学期中に学校を通じて周知を行っていきたい。

住民サービスの向上について

費用対効果の面からも、ふさわしいシステムの導入を広く検討していく

問 本町役場における窓口業務の実態について昨年度の住民異動件数、各種証明書発行件数に伴う申請窓口の対応状況は。

答 住民課では、転入転出等手続件数4286件、証明書の窓口発行件数、住民票、印鑑証明等が1万6381件、戸籍関係の証明書の発行件数が6209件。コンビニ交付の実績は、住民票、印鑑証明、戸籍関係証明書の合計で4924件。税務課では税務証明書の発行件数は合計で3399件。こ

のほか、証明コンビニ交付サービスで、所得課税証明書1977件発行。

問 現在の窓口業務における具体的な課題についてどのような点にあると認識しているか。

答 3月、4月の転入転出が増加する繁忙期には、窓口が混雑するため改善が必要と考えている。また、住民構成の高齢化や、役場の開庁時間に来庁することが困難な方の増加により、行政手続きに係る時間の短縮や省力化のニーズが高まるものと考えられる。

問 住民サービスの向上と窓口業務の効率化につながる「書かない窓口」を導入すべきではないか。

答 国等の動向を注視しながら、本町での最適な自治体DXの方向を書かない窓口の導入を含め、先進自治体の導入事例を調査研究しながら、検討していきたい。





かみなが よしお 議員
紙永 芳夫



6月議会会議録

世代間交流施設整備事業について

社会生活や地域における結びつきを強める効果が期待される

問 本年3月に策定された(仮称)藍住町世代間交流施設整備事業計画における新たな施設は、高齢者の健康にどのような効果があるのか。また、健康増進に対する具体的な考えは。

答 新たな施設においても、世代間の交流や様々なイベントを通じて得られる精神的充実感の効果など、健康増進が図られる。世代を問わず「あ

つまる」、「つながる」、「ひろがる」場所が、大きな健康増進効果と考えている。

問 多くの方が施設の完成と利用を心待ちにしている。特に期待するのは、交流空間に位置付けられているオープンスペースである。オープンスペースが果たす役割や効果は極めて重要と認識しているが、多世代の利用者が様々な目的で利用できるスペースをどのように活用していくのか。

答 オープンスペースは新しい交流を生み出せる役割を持たせることと考えている。様々な用途に利用いただけるよう、イベント、特に世代を問わず、見る、聞く、参加するというような企画や利用について、町民の方々の主体的かつ積極的な参画を期待している。

問 新たな施設が地域コミュニティの活性化にどのように関係していくか。防災に関してどのような安全の提供を予定していくのか。

答 世代間交流と地域コミュニティの活性化は、強く、深く関係しており、これを結びつけるきっかけを作ることが大変重要であり、そのスタートとなりうる場所が世代間交流施設と考えている。オープンスペース等を利用した防災イベントの開催などにより、ほかの目的で来館した方々の参加が期待できる。そうした体験や情報を家庭や地域に持ち帰り共有していただくことで、町全体の防災力の向上が期待できるものと考えている。



行政の取組について

持続可能なまちづくりに向けた、行財政改革をしっかりと推進していきたい

問 高橋町長は多様なニーズに応えていくため健全な行政運営によるまちづくりを掲げ、行財政改革を的確かつ着実に進められている。これまでの町政を振り返り、今後の取組への気持ちは。

答 少子高齢化が進展する中で、山積する課題や課題に対応していくため、今後、世代間交流施設を拠点とした取組をしっかりと進めていく。2期では達成できなかった福祉や教育、防災など、様々な分野でまだまだ取り組んでいきたいことがある。長期的な展望に立ち、3期目も町のトップとしてその重責を担っていきたい。



おがわ ゆきひで 議員
小川 幸英



6月議会会議録

登下校の安全対策について

子ども110番の家制度について周知を図っていく

問 全国的に登下校の生徒の中に車が突っ込むという悲惨な事故が起きているが、本町の登下校の危険箇所の点検や保護者への働きかけはどのようにしているか。

答 藍住町通学路交通安全プログラムにより、7月頃各学校に対し、通学路における危険箇所の報告を依頼し、職員、保護者の方等が参画している。また、通学路安全対策推進会議を開催し、県や町の道路管理者、警察、小中学校の関係者が危険箇所を確認し、関係機関に対応を依頼する。

問 第2期藍住町子ども・子育て支援事業計画によると登下校の安全対策として地域見回りボランティアを募集しているが何人集まったのか。また、校区ごとの人数や見守り体制などはどのように

なっているか。

答 各学校で数名から40名程度いる。登校への付き添いから家の前までの下校の見守り等それぞれ可能な範囲で活動をしている。

問 巡視員の活動について配備態勢はどのようなか。

答 藍住町児童下校時見守巡視員として現在、9名の方を委嘱している。下校時の2、3時間程度、スクーターによる通学路の巡視活動を行っている。

問 地域の協力を得るために教育委員会からの働きかけはどのようなか。

答 教育委員会からの直接的な働きかけはないが、各小学校から学校運営協議会や民生委員児童委員連絡協議会などの機会に依頼をしている。

問 子ども110番の家の数とどのように活用されているか。

答 北小校区22件、南小校区26件、西小校区30件、東小校区17件。子供たちに子ども110番の家についての周知をし、身の危険を感じたときには助けを求めて駆け込むよう指導を行っている。

70周年記念事業について

記念講演については広報あいずみや町ホームページ等で知らせていく

問 招待した対象者は何名か。

答 565名。

問 元議員を招待しなかった理由は。

答 席数633席の総合文化ホールで開催したため。

問 エコバックはいくつ作ったのか。

答 1000枚。

問 エコバックはいくつ売れたのか。

答 50枚。

問 記念講演で前回は西川きよしさんを呼んで町民の方にたくさん来ていただいたが今回はどのように計画しているか。

答 石原良純氏をお招きし、総合文化ホールで開催する。



町内施設の耐震化について

耐震改修については、老朽化した町営住宅を含め、総合的に対策を検討する必要もある

問 老人憩の家、町営敷地団地、町営中富団地の耐震化の計画はどのようにしているか。

答 老人憩の家は、町公共施設等総合管理計画においても、耐震化を行う予定は示されていない。町営敷地団地及び町営中富団地は空き家となった住戸の再募集を行わず、段階的に戸数を減らしていく。



はやし しげる 議員
林 茂



6月議会会議録

下水道事業について

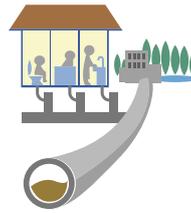
目標に向けて着実に事業を進めていく

問 公共下水道事業に51億4640万円。事業費の6割は借金である。公共下水道1基当たりの工事費用357万円に対して合併浄化槽は26万9千円。合併浄化槽は8億1013万円。全世帯に16億円で設置できる。当初から合併浄化槽であれば、35億円の財源を町民の福祉や教育、暮らしに振り向けることができたと考える。

町の下水道第3期事業計画の概要は。

(勝瑞みどりが丘団地周辺)

工事費、工事期間、対象人口。



答 みどりが丘団地を含む勝瑞地区と住吉地区の一部地域であるA4処理分区は、管渠工事の直接工事費が約8億7600万円、工事期間は令和17年度までに完成、対象人口は3450人。

老人憩の家の充実

高齢者を主体とした地域交流の場としての役割を担う

問 世代間交流施設が完成したら敷地を賃貸借している西部、徳命、笠木、乙瀬、住吉は、地権者に返還するのか。

答 町公共施設等総合管理計画において、現状の運営形態を継続し、改修計画策定により施設廃止となった場合は、賃貸借する敷地を地権者に返還すると示しているが、現時点では、改修計画策定の予定はなく土地賃貸借契約の解除も考えていない。

物価高騰から町民の暮らしを守る緊急対策として

現在そして将来を見据えた公平で効果的、かつ的確な予算編成に取り組んでいる

問 スーパーの消費税5%引き、値札が半額になるのを待っていて買う町民、服やシャツを買いたくても買えず姉のお下がりで我慢している主婦等がいる。次のことを強く要望し、町の見解を。

- ① お米5000円券を全世帯に支給してほしい。
- ② 全ての町民に1人5000円を支給してほしい。
- ③ 学校給食費を無償にしてほしい。
- ④ 住宅、店舗リホーム助成制度を創設し、地元業者の仕事を増やして地域経済を活性化させてほしい。

答 ①約7800万円が必要であり、世帯人員には相当な幅があるため公平な方策とは考えられない。

②総額で約1億7600万円となる。また、相当の事務手続と費用が必要となり、費用対効果が決して高いとは言えず、非効率性も否めない方策であると考えている。

③年間1億9700万円が必要であり、慎重にならざるを得ない。今後、国の動向を注視していく。

④今必要とするのは、発生確率が高くなった南海トラフ巨大地震に備えるための住宅耐震化であり、これを目的とした補助事業に注力すべきであると考えている。



藍住町議会夏休み絵画コンクールを実施します！

テーマ
画材・用紙

応募資格

応募期限

「私の好きな藍住町」

・クレヨン、色鉛筆、水彩画など（ただし、折り紙、毛糸などの立体物の使用は不可）
・八つ切画用紙

小学生から中学生（藍住町内在住の方）

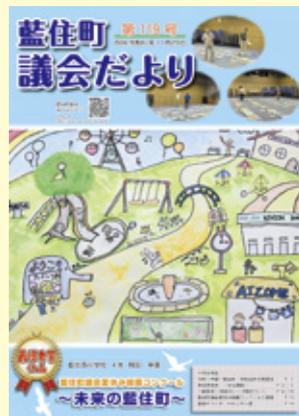
※1人1点 未発表のもの

令和7年9月30日（月曜日）午後5時必着

※応募者は、応募規定をご確認ください。



↑応募規定・応募用紙のダウンロードはこちらから



議員研修報告

「女性議員連盟総会に参加して」

藍住町議会議員 元木春香、宮本影子

女性議員連盟総会に参加させていただき、「防災」をテーマに意見交換

などが行われました。防災についてはこれまで自分自身で深く関わる機会が少なかった事もあり、少し後ろ向きな気持ちもありましたが、同じように感じておられる方も決して少なくないのかもしれないと

2025年5月末時点における徳島県内の防災士登録者数は7160人で約100人に1人の割合です。一方、藍住町の登録者は、県平均の1%を大きく下回っております。

また、藍住町は徳島県内の町村の中で最も人口が多く人口密度も県内で2番目に高い地域になります。さらに町職員数は類似団体の中で人口1万人あたり2番目に少ない状況でもあります。災害時には1番に自ら

の命を守る自助、次に地域の人が支え合う共助、そして私たち議員や

行政による公助がバランス良く機能することが基本とされますが、調査結果からも分かるように行政職員の数が十分でない現状では住民の皆さんの協力なしには災害対策は成り立ちません。

様々な立場で不安を抱える方々が少しでも安心できるような一歩踏み込んだ住民参加型の取り組みも考えながら進めてい

く必要があると感じました。元木春香

5月15日に徳島市の自治会館において、徳島県町村議会女性議員連盟の研修会並びに総会が開催されました。

研修会では徳島県防災人材育成センターの中野裕文氏を講師に、南海トラフ地震や防災対策をテーマに講義が行われました。

巨大地震が起こった際には、発生時から避難所に向かうまでの間に様々な被害が生じる可能性があります。私たち自身の身を守るためどう行動をとるべきなのか、普段からどのような心構えでいればいいのか、こうした点について考えさせられました。

また、災害時の避難所運営等においては、特に女性のニーズに配慮した対応が十分に行われてい

ないとのことでありました。今後は、女性目線の防災対策への取組が1層、重要になってくると再認識させられました。研修会終了後には総会が開かれ、各町村の高齢社会対策についての発表、質疑応答が行われました。

急速な高齢化への対応は全ての自治体の課題です。本町においても、高齢者の方々にとって住みよいまちづくりが求められています。現状は十分なものではないかもしれませんが、高齢者の方々を含めた全ての住民が暮らしやすい町となるよう、今後しっかりと政策提案に努めてまいりたいと思います。

宮本影子



藍住町議会議員研修報告

藍住町議会議長 米本 義博

7月1日と7月2日、友好都市交流及び災害についての視察研修を議員ほか職員の14名により山形県河北町と宮城県石巻市で実施しました。

河北町は山形県中央部の山形盆地北西部に位置し、町の南端で寒河江川と最上川という大きな川が合流しています。令和2年7月に発生した豪雨災害により、最上川では堤防からの越水が4か所、溢水が5か所発生し、河北町も大きな水害に見舞われました。町では、家屋など床上床下浸水を含めて、住家140棟、非住家4棟が被災しました。農地は325ヘクタールと町の耕作面積の2割弱が水につかりました。開設した避難所は、町内外13か所、延べ1,081人が避難を余儀なくされ、災害廃棄物の処理では、町内7か所に分別・保管・処理するための仮置き場等を設置しましたが、処分完了までに約5か月を要しています。町の復旧・復興の取組は、9月23日付で河北町豪雨災害復旧・復興推進本部を設置し、令和2年11月には令和2年7月豪雨からの復旧・復興に係る基本方針を定め、効果的かつ迅速な活動を推進しました。町の組織体制として、河北町豪雨災害復旧・復興本部の事務局を豪雨災害復旧・復興室を総務課に（現在は防災危機管理課）設置し、防災・危機管理監という課長級の職をつくり総務課長が兼務することで防災危機管理課や関係課と関わり活動できるよう体制を整えています。豪雨災害から5年が経とうとしていますが、全国的に水害が激甚化・頻発化する中、国県など関係機関と連携しながら治水対策に取り組んでいます。

町役場での研修の後、紅花資料館と児童動物園を見学しました。河北町は「雛とべに花の里」を掲げ、町の花を「紅花」としています。藍住町との交流は紅花染めと藍染めによって結ばれた縁からはじまり、平成3年7月に友好都市締結を交わしています。紅花資料館では友好のきっかけとなった紅花染めを体験しました。染色の指導をしてくださった先生から、藍住町で紅花染めを紹介したことがありますと声をかけていただくなど、改めて友好交流の歴史を感じるとともに、今に残る紅花の文化を共有し、先人の努力と功績に光を当て、技法を守り育て、次世代に伝える取組を学ぶことができました。



宮城県石巻市では、震災遺構門脇小学校で研修を行いました。平成23年3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7を記録した東北地方太平洋沖地震が発生して14年が経過しています。石巻市では震度6の激しい揺れと、その後に発生した大津波により甚大な被害を受けました。震災遺構門脇小学校は、東日本大震災で起こったことや教訓を継承するために整備された場所のひとつです。元教頭先生で語り部の佐藤裕一郎さんから御自身が震災当時に経験したそのままをお話していただきました。はじめに、震災前、この学校の前には市街地が広がり、そのすぐ後ろに海がありましたが、建物で校庭から海は見え、校舎の屋上からやっと海が見えるような風景が広がっていたとの説明がありました。そして、発災時の状況をお話ししながら、「校庭で、津波が来る様子に気付かなかったら。」「燃えさかる校舎から避難するとき、教壇を活用するアイデアが出なかったら。」「おそらく命を全うすることができなかったかもしれない。」と、当時を振り返っていました。小学生が高台に避難するときに町民の方と一緒に手をつないでということを経験したのですが、そうだったのですかとこの質問には、私自身は確認していないが、下校途中の児童を地域の方が家まで送り届けてくれたことを後から聞いて本当にうれしく、ありがたいと思った。また、震災に遭って児童がショックでパニックになったとのことでしたが、心のケアをどうしたのかとの質問には、震災後カウンセラーに来ていただいて対応してもらった。学校では、児童ができるだけ普段の生活が送れるようにとの思いでサポートしていたと答えてくださいました。聴講後、校舎の前にかつてあった街並みがなくなっていることや、火災で焼けた教室の様子などを見学しました。

南海トラフ地震の発生が危惧されていることに加え、近年は台風、豪雨、豪雪、土砂災害による大きな被害が、全国各地で住民生活や経済活動に深刻な影響を及ぼしています。近年、藍住町では大規模な災害の被災経験がありませんが、災害は時と場所を選ばず起こります。大規模な災害にあったとき町民の生命・財産を守るためにはどうすればいいのか、議員として、議会としてどんなことができるのか、研修で学んだことを参考に考えていきたいと思えます。



～藍住町への思い～

現在74歳になる私は、町内で50年余り農業を行なってきましたが、この間に町は大きく変わりました。農地の宅地転換が進み、道路が整備され、治水事業で河川改修もなされました。また大型商業施設や多くの量販店が建設されました。

現在も住まう生家の二階からは、小さい頃には、大麻比古神社の鳥居まで確認することができました。台風襲来後には、住吉神社南側一帯の農地には水がたまり、湖のようになったことを記憶しています。今では、同じ場所からは鳥居を見ることは不可能になり、湖ができることもなくなりました。

都市化の進展とともに利便性は高まったものの、町内で農業を営む上では不便を感じる事が多く、苦勞することも頻繁に起こります。

農地と宅地が共存し、自然と産業が調和する町を目指してほしいです。藍住町は本年4月に「地域福祉計画」を策定しましたが、私も委員としてその過程に関与しました。

近年「新型コロナウイルス」の影響で人付き合いのあり方も変わりましたが、本計画は一人一人が相互に思いやることのできる指針となると考えます。

地域が団結し、個人がそれぞれの思いを活かして安全安心な住みやすい町が実現されるよう祈っています。



議会のうごき

5月

1日

議会全員協議会
令和7年第1回定例会で提出された動議と議員個人の活動報告について

9日

藍住町議会広報特別委員会
第121号の作成について
松茂町正副議長就任挨拶
藍住町福寿連合会第64回定期総会

12日

徳島県町村議会女性議員連盟総会 (徳島市) p10

15日

北島町議会正副議長就任挨拶
北島町 (北島町)

21日

板野東部消防組合議会臨時会
令和7年第2回藍住町議会定例会の日程等について
徳島環状道路建設促進期成同盟会第33回総会 (徳島市)

23日

後期高齢者医療例月出納検査 (徳島市)

26日

町村議会議長・副議長研修会 (東京都)

27日

28日

6月

3日

議会運営委員会
一般質問の通告について
6月議会定例会開会
議会全員協議会

6日

藍住町立小学校及び中学校の体育施設開放に関する条例の一部を改正する条例について

10日

藍住東中学校体育館空調設備設置事業について

1日

定額減税を補足する調整給付金事業(不足額給付)について
令和7年度議員視察研修について

4日

藍住町議会広報特別委員会
藍住町議会夏休み絵画コンクール実施要領について

12日

6月議会定例会一般質問
議会全員協議会

13日

議員活動の在り方について
シルバー人材センター定時総会

14日

6月議会定例会閉会
議会改革調査特別委員会
議場傍聴対応モニター設置について

17日

町政施行70周年ロマンのかげはし町民号 (山形県・宮城県)

19日

後期高齢者医療広域連合一般会計・後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算審査及び例月出納検査
役員選挙委員会

25日

藍住町議会議員視察研修 (山形県・宮城県) p11

27日

令和7年第1回臨時会
後期高齢者医療広域連合例月出納検査
あいずみ商工会納涼祭
第81回徳島県町村議会議長会定期総会

28日

30日

31日

7月

1日

2日

3日

4日

5日

6日

7日

8日

9日

編集後記

徳島の夏の風物詩である阿波踊りや高校野球も終わり、季節は秋へと移り変わりつつあります。が、まだまだ蒸し暑い日が続いています。今春、お米の不足が全国的なニュースとなりましたが、我が町では例年とほとんど変わらず、田では稲穂が大きく成長している光景がみられます。

また、「多面的機能」という言葉があるように、生産者の方々は稲作を通じて、自然豊かで住みやすい環境づくりにも貢献してくれています。

私たちが議員は、農業支援を行うとともに、全ての町民の皆様が豊かで健やかに暮らすことのできる町づくりを目指して参りたいと考えています。

宮本 影子

藍住町議会広報特別委員会

- 委員長 竹内 君彦
- 委員 元木 春香
- 委員 栗島 和義
- 委員 新居 純一
- 委員 前田 晃良
- 委員 宮本 影子
- 副委員長 元木 春香